



京都大学医学図書館の情報リテラシー教育

北川 昌子

I. 京都大学医学図書館の情報リテラシー教育の環境と対象者

京都大学には、中央館である附属図書館以外に、学部・大学院研究科や研究所などの部局に50余の図書館・室が設置されている。京都大学医学図書館（以下、医学図書館という）は、医学部内の各教室に分散していた図書室の集中化により、昭和40年に医学部に設置された。附属図書館と、部局の図書館・室とは常に連動・連携した相互協力関係をもちながら、独立性・独自性をもって各々活動している。情報リテラシー教育に関しても同様である。

医学図書館の運営には、大学院医学研究科・医学部・附属病院だけではなく、再生医科学研究科などの5関係部局も関わっている。これらの所属者が、医学図書館の入館者の約80%を占めており、情報リテラシー教育の主な対象者として捉えることができる。

II. 学内の情報リテラシー教育

本学附属図書館では、全学を対象として情報リテラシー教育を総合的に行っている。1. 新生歓迎オリエンテーションおよび図書館ツアー、2. データベース講習会（講義形式）およびデータベース定期講習会（実習形式）、3. 文献収集講座、4. 個別対応講習会、5. 全学共通科目「情報探索入門」を柱としている。部局図書館・室でも独自に情報リテラシー教育を行っており、多くの場合、利用者の所属を問わず、ど

の部局の講習会にも参加できる機会がある。

図書館業務上では、学内図書館・室は、附属図書館と連動した講習会を行う場合がある。また、5. の全学共通科目の授業のように、配属部局に関わらず、図書館員が協力してテキスト『大学生と「情報の活用」：情報探索入門』（京都大学図書館情報学研究会発行）を作成し、演習補助として授業に参加するなどの連携協力も行っている。

III. 医学図書館の情報リテラシー教育

医学図書館で実施している情報リテラシー教育は、個人対象の日常的なデスクでのリファレンスは別として、形態別にオリエンテーション、授業、講習会、オンデマンド講習会に大別することができる（表1）。

オリエンテーションについては、附属病院実施の医員・研修医対象オリエンテーションの一部に「医学図書館の利用について」が組み込まれ、医学図書館が担当している。

院生・学部生向けの授業は、対象別に、1. 社会健康医学系専攻専門職学位課程1回生、2. 医科学専攻修士課程1回生、3. 医学部医学科3回生の3種類を医学図書館が担当している。情報検索の基礎のほか、著作権などの情報倫理や文献入手方法などは共通する内容である。

例えば、1. は、「社会健康医学基礎スキルI：文献検索・評価法」のうちの2コマ（180分）で、授業内容は、医学図書館の利用案内・各種データベース案内、情報検索の基礎、The Cochrane Library、Ovid Web Gateway、ISI Web of Knowledge (Web of Science、Journal

表1. グループ対象の情報リテラシー教育一覧

情報リテラシー教育の内容	平成15 (2003) 年度			平成16 (2004) 年度		
	回数	講師・人数	時間(分)	回数	講師・人数	時間(分)
図書館の利用について(医員・研修医オリエンテーション)	1	図書館員 1	10	1	図書館員 1	10
OPAC の使い方講習会	4	図書館員 1	60	4	図書館員 1	60
「社会健康医学スキル1」 社会健康医学系専攻修士1回生 授業	1	図書館員 3	90	1	図書館員 3	180
SciFinder School 講習会	1	化学情報協会 1	90	1	化学情報協会 1	90
ISI Derwent Innovations Index 講習会	—	—	—	1	ISI Thomson Scientific 3+教職員 3	—
オンラインジャーナルの使い方講習会	3	図書館員 1	60	7	図書館員 1	60
オンデマンド講習会	—	—	—	1	図書館員 1	120
医中誌 Web 講習会	1	医学中央雑誌刊行会 1	90	(未定)		
医科学専攻修士1回生 授業	1	図書館員 2	90	1	図書館員 3	180
「医療情報学」医学部医学科3回生 授業	—	—	—	1	図書館員 3	180
PubMed 講習会	2	図書館員 1	40	2	図書館員 1	40
Cochrane Library 講習会	2	図書館員 1	40	2	図書館員 1	40
ISI Web of Science 講習会	1	ISI Thomson Scientific 1	90	1	ISI Thomson Scientific	90
Ovid データベース利用講習会	1	代理店 1	90	1	代理店 1	90

Citation Reports、Highly Cited.com)、OPAC、Online Journal などで、データベース検索演習も含まれる(ただし、医中誌 Web および PubMed については、別途、教員らにより行われるため、担当時間内では行っていない)。

3. は、「医療情報学」のうちの2コマで、授業内容は、1. の、The Cochrane Library および ISI Web of Knowledge の代わりに、雑誌記事索引、医中誌 Web、PubMed を行っている。データベース検索演習を含め、情報検索や情報収集の基礎的な部分に重点をおいた授業になっている。

講習会は、各種データベース別の開催となる傾向があり、外部データベースの一部には、外部講師に依頼し、附属図書館や他の部局と連動して行うものもある。

講習会開催にあたっては、企画準備段階の調整や開催後のアンケート集計、フォローアップが大切となる。また、広報は、講習会内容にあわせて、メーリングリスト、ポスター、ホームページ、チラシ、個別メールなどの複数の手段を用いて、配布・配信範囲、回数、枚数の工夫などにより大々的に行うことが必要である(図1)。



図1. 京都大学医学図書館のホームページ (<http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp/>)

オンデマンド講習会は、内容・場所・方法など、利用者の要望に応じて行うものである。相談を受けた段階と実際行った時とでは内容が異なり、さまざまな質問や応用が派生的に出てくるという点では、図書館員の専門性、豊富な経験、資質などが問われる。

情報リテラシー教育は、利用者情報と情報資源を結びつける情報ナビゲーション的機能を果たすための、図書館職員の熱意、自己研鑽、主題知識やスキルの継承などが重要な要素となる。今後は、教育対象者の拡大、図書館による教育支援の浸透・定着、評価なども課題である。